

3ヶ月間留学して

東京工業大学大学院理工学研究科材料工学専攻
修士課程1年

藤田 紘司

私は東京工業大学の留学制度を利用し、英国のオックスフォード大学に2009年8月から3ヶ月間留学に行っていました。英語圏最古といわれる大学での生活、多種多様な人々との生活は私にとって非常に新鮮なものでした。留学中の生活やその中で感じたことをここに述べさせていただきます。

オックスフォード大学は学科とカレッジから成り立っています。私は Department of Materials, Corpus Christi カレッジに受け入れていただきました。Materials はアトムプローブ装置の開発をはじめ最先端の研究を行っているところで、Corpus Christi カレッジは、学生たちに寮や学習環境を与えている38あるカレッジの1つです。

私は、Al 合金中の金属間化合物や Al 合金の機械的特性について研究を行っている Keyna O'Reilly 先生と Marina Galano 先生のお2人の下で、工業用 Al 合金の組織について研究を行いました(写真)。私の東工大での研究テーマは金属の高温酸化であり、Al 合金に関する研究は初めてだったので、最初は Al 合金に関する論文を読み漁り勉強しました。先生方とは週1回程度、実験結果と勉強した内容に関してディスカッションをしました。初めは私の拙い英語力から思ったことがうまく言えませんでした。しかし、回数を重ねるうちに自分から質問し意見が言えるようになり、納得するまでディスカッションができるまでになりました。

実験に取り組む時は、各実験室にいる技官たちと一緒に適切な実験方法を吟味しました。居室が一緒だった学生とは研究や大学生活の様子について話しました。いろいろな人と話すことにより大学の研究環境や学生生活の違いを知ることができました。

ディスカッションや学生たちとの会話を通じて感じたことは、オックスフォード大学では実験方針や原理を十分納得し

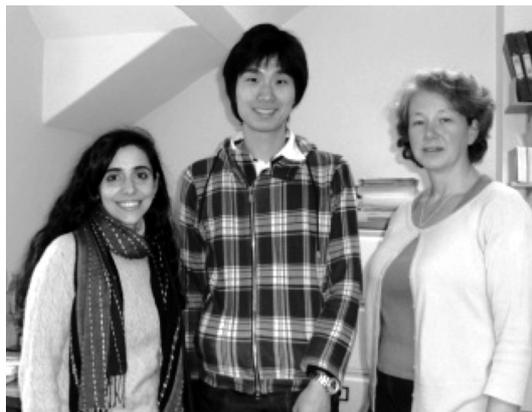


写真 Marina Galano 先生(左)と Keyna O'Reilly 先生(右)と筆者(中央)。

てから実験を始め、そして一度始めたらどんなに時間がかかっても納得する結果が得られるまで行うという印象を受けました。また、学生と指導教員は頻繁にディスカッションを行っており、互いの距離が近い印象を受けました。

研究以外の活動として学科対抗のクリケット大会がありました。クリケットは、イギリスではサッカーと同様、人気の高いスポーツです。試合には学生だけではなく大学職員も参加するので、試合後はパブでビール片手に様々な人々と会話することができました。その他にもカレッジではガーデンパーティーなどのイベントがあり、学科さらには国を超えた交流をすることができました。学生に日本について尋ねると、アニメや政権交代の話が聞け、客観的にみた日本を知ることができました。また、様々な国の人々の考え方や価値観などを感じることができました。英語を通したいろいろな国の人々とのコミュニケーションを経験し、人の輪を広げるチャンスを与えてくれる英語の重要性を強く感じました。

留学した事によって、当たり前のことなのですが、研究において納得するまで丁寧に取り組む姿勢が身に付いたと思います。また、多種多様な人々との交流や日本と異なる文化からの刺激によって視野が広がり、これからの国際社会における日本や私自身の立場がどうあるべきかを考えさせられました。さらに、留学当初はトラブルばかりでしたが、それらを乗り越えてくうちに、困難に対して前向きに行動できるようになりました。この3ヶ月の経験はこれからの私の人生において大変貴重なものになると思います。このような機会を与えてくださった多くの方々はこの場を借りて心より感謝を申し上げたいと思います。

(2010年1月7日受理)

(連絡先：〒152-8552 東京都目黒区大岡山2-12-1)